

## 「じぶんでできるよ」

～かぞくスマイル大きくせん！ぼく・わたしにまかせて！～

課題発見・解決能力，主体性

1 日時 令和5年10月27日（金）1校時

2 学級 第1学年3組（男子16名，女子14名 計30名）

3 単元設定の理由

## (1) 単元観

本単元は，小学校指導要領生活の目標（3）「自立し生活を豊かにしていくこと」内容（2）「家庭生活に関わる活動を通して，家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ，家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり，自分の役割を積極的に果たしたり，規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。」を受けて設定した。

家庭生活は児童にとっての生活の基盤であり，心のよりどころである。しかし，児童にとってあまりにも身近であるため，その大切さに気付くことが少ない。だからこそ，家庭生活を振り返ったり，家族にインタビューをしたりすることを通して，家族が自分にくれていること，家庭での生活は互いに支え合っていることに気付かせていくことができる。本単元で終わるのではなく，家族の人に感謝の気持ちをもって，自分の家庭でできることを考え，役割を果たしたり，増やしたりして，継続的に続けていくとともに，健康に気を付けて規則正しく生活できることを目指し，本単元「じぶんでできるよ」を設定した。

## (2) 児童観

本学級の児童は，学校生活において，4月から給食当番や掃除活動，係活動を一人一役で行っている。一人一人決められた係の仕事を，責任をもって意欲的に取り組む姿が見られた。また，自分の仕事でなくても，配りもの等，ボランティアを募ると「やりたい！」と積極的に参加するなど，クラスの手伝いをしている児童も多い。しかし，係の仕事をし忘れ，誰かに言われないとできない児童も数名いる。

本単元に向けての事前アンケートでは，次のような結果が得られた。

お手伝いについての児童アンケート（1年3組 30名中）

	あてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	ぜんぜんあてはまらない
① せいかつの じゅぎょうは すきです。	82%	8%	0%	0%
② じぶんのことは じぶんでやっています。	68%	32%	0%	0%
③ いえで おてつだいをすることは すきです。	72%	8%	12%	8%
④ いえで おてつだいを しています。	80%	7%	3%	10%

この結果から、すべての児童が「じぶんのことはじぶんでやっている」という質問に肯定的な回答をしているが、児童や保護者の話から、ランドセルの準備を進んで行わなかったり、朝起こしてもらったりするなど、結果と現実と差がみられる。また、約8割の児童が家でお手伝いをし、お手伝いをすることが好きだと感じているが、好きなお手伝いしか行わなかったり、声かけをしないとお手伝いをしなかったりする等といった実態がある。

さらに、お手伝いが好きな理由について、「家族のため」ではなく、「ほめてもらえるから」「お小遣いをもらえるから」などが多く、自分の利益のためにしていることが分かった。

このことから、「自分のことは自分です」「家族のためにお手伝いをする」といった家族の一員としての役割を果たしているとは言えないことが分かった。「自分の利益のため」から「家族のため」へと変わるように、さらに自分の成長や責任に喜びを感じられるように、単元を構成していく。

### (3) 指導観

指導に当たっては、次の三点に留意する。

一点目は、小單元ごとに活動の視点をもたせることである。「じぶんのいちにちをみつめよう」では、家族が自分にしてきていることから、自分の家庭での役割に気付かせる。「じぶんでできることをしよう」では、自分ができることを考え、実施する計画を立てる。パート①では、自分のできそうな取組をする。パート2②では、「自分のしたいこと」のみで決めるのではなく、「家族のためになること」の視点をもたせる。そのため、ステップチャートを用いて視覚化し、視点がぶれないようにする。「これからもつづけよう」では、「家族の気持ち」「自分の気持ち」の二つの視点で振り返らせる。

二点目は、取組を計画・実施・振り返りをするを繰り返すことで、自分のためから家族のためにとという気持ちを育てる。パート1では、家族に喜んでもらえて嬉しいという気持ちをもたせ、パート2では、家族の一員としての役割を果たすことができた自分に、自信をもたせることを目指す。リフレクションを活用し、家族の思いや家族のよさに気付かせ、家族の一員として継続して役割を果たしたいという思いをもたせたい。前提として、規則正しく健康に気を付けて生活しようとするができるよう声かけをしていく。

三点目は、子供の反応を引き出すために、ファシリテートすることである。例えば、取組の目的が「楽しそう」ととどまっている児童には、家族のためになるという気持ちを引き出す声かけを行う。子供の自由な発言や活動を促進するために、意図的・効果的な相槌を行う。その際、ルーブリック評価を効果的に活用し、客観的、即自的に見取っていく。

3学期の学習「もうすぐ2ねんせい」の学習では、1年間の自分の頑張ったことや成長を振り返る。この中で本時の学習を想起させて、自分のできるようになったこととして繋げていきたい。

なお、児童の家庭環境については、実態がさまざまであることから、十分な配慮をする。それぞれの家庭の違いを良さとして認め、児童が自分の家庭の様子や温かさ、良さに気付くことができるよう声をかけていく。また、各家庭のプライバシーを尊重し進めていく。

## 4 単元の目標

家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家の人のことや、家の人へのよさ、自分でできることなどを見付け、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとするができるようにする。

5 単元の評価規準（小単元における評価規準）

評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気付いている。	家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、家庭における家の人とのことや自分でできることなどを見付けている。	家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、自分の役割を積極的に果たそうとしている。
小単元における評価規準	じぶんのいちにちをみつめよう	① 家庭において、自分が家の人に支えられていることに気付いている。	① 自分の生活と比較しながら、家の人々の生活を見たり聞いたりしている。	
	じぶんでできることをしよう	② 家の人には、それぞれに果たしている仕事や役割があることに気付いている。	② 家族の喜ぶことを意識したり、自分が家庭で役割を果たしている姿を思い描いたりしながら、家で取り組むことを決めている。	② 家の人々の役に立ちたいという思いをもち、試行錯誤しながら、家庭での自分の役割を果たそうとしている。
	これからもつづけよう	③ 自分自身が家庭を構成している大切な一人であることに気付いている。	③ 活動前の自分と今の自分を比較して、できるようになったことを表現している。	③ 自分が家庭の役に立てるようになった自分に自信をもって、これからも自分の役割を果たしていこうとしている。

6 単元（小単元）のルーブリック

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 じぶんのいちにちをみつめよう	A	自分が家の人にしてもらっていることがたくさんあり、その中には自分でできることがありそうだということに気付いている。	A 自分や家の人々がしていることをワークシートに書き、共通点や相違点の中から家の人々が自分のためにしてくれていることを見付けている。	A	
	B	自分が家の人にしてもらっていることがたくさんあることに気付いている。	B 自分や家の人々がしていることをワークシートに書き、その中から共通点や相違点を見付けている。	B	

2	じぶんのできることをしよう	A	家の人に聞いて、家の人がしている仕事や役割に気づき、その中から自分にもできることを見付けている。	A	自分のできそうなことから取組を決め、理由を書いている。	A	発表を通して、パート2への意欲を、「家の人のために」という視点をもって書こうとしている。
		B	家の人に聞いて、家の人がしている仕事や役割に気付いている。	B	自分のできそうなことから取組を決めている。	B	発表を通して、パート2への意欲を書こうとしている。
	じぶんのできることをしよう	A		<b>A</b>	<b>家族にとってより必要な手伝いを思い描きながら取組を決め、家族の視点で理由を書いている。(本時)</b>	A	家の人役に立てて嬉しいという思いを書き、それが自信につながっている。
		B		<b>B</b>	<b>自分のできそうなことから取組を決め、家族の視点で理由を書いている。(本時)</b>	B	家の人役に立てて嬉しいという思いを書こうとしている。
3	これからもつづけよう	A	自分が続けていることやその時の家族の様子を振り返り、自分自身が家庭を構成している大切な一人であることに気付くとともに、友達によさや頑張りにも気付いている。	A	自分ができるようになったことを話し、さらに続けていきたいことや挑戦していきたいお手伝いを決めている。	A	自分や友だちのよさや成長に気づき、これからも家族の一員として役割を果たしていこうという思いを書こうとしている。
		B	自分が続けていることやその時の家族の様子を振り返り、自分自身が家庭を構成している大切な一人であることに気付いている。	B	さらに続けていきたいことや挑戦していきたいお手伝いを決めている。	B	自分のよさや成長に気づき、これからも家族の一員として役割を果たしていこうという思いを書こうとしている。

7 単元の全体計画（全12時間）

次 小単元名	学習内容	評価			
		知 ・ 技	思 判 表	主 体 的	評価方法
1 じぶんのいちにちを みつめよう	○ 家庭で自分が毎日していることを調べ、家庭での自分の1日や家の人がしていることを振り返る。(2)		①		ワークシート・発言
	○ ワークシートを基に気付いたことを話し合い、自分の生活や家の人がしていることについて話し合う。(1)	①			ワークシート
2 じぶんでできることをしよう	(家庭) 家の人がしていることを調べる。				
	○ 調べてきたことを伝え合う。(1)	②			ワークシート・発言
	○ 家族スマイル大作戦パート1に向けて、家庭で自分ができようことを考え、実施する計画を立てる。(1)		②		ワークシート・発言 リフレクションシート
	(家庭：家族スマイル大作戦パート1) 自分でできる一つのお手伝いに、5日間取り組む。				
	○ 家族スマイル大作戦パート1で自分が取り組んだことを紹介し合い、家族スマイル大作戦パート2へ意欲を高める。(2)			②	ワークシート・発言 リフレクションシート
	○ <b>家族スマイル大作戦パート2に向けて、やりたいお手伝いを決めカードに書く。(1) (本時)</b>		②		<b>ワークシート・発言 リフレクションシート</b>
	(家庭：家族スマイル大作戦パート2) 自分で考えたお手伝いに、さらに7日間取り組む。				
○ 家庭で取り組んだことを振り返り、良かったことや気付いたことをカードにまとめ、伝え合う。(1)			②	ワークシート・発言	
3 つづけよう これからも	○ さらに続けていきたいこと、挑戦していきたいことを考え、カードに書く。(1)		③		ワークシート・発言
	(家庭・常時活動) 家庭や学校で、自分が続けたいことや挑戦したいことに取り組む。				

	○ 自分が続けていることを、グループの友だちと伝え合う。(1)	③		発言
	○ (期間をとおいて)自分が家庭や学校で続けていることや、続けてよかったことなどを話し合う。(1)		③	がんばりカード・発言

8 単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

資質・能力	目指す児童像
課題発見・解決能力	家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、家庭における家の人のことや自分でできることなどを見付け、役割を果たすことができる。
主体性	家庭生活について、自分のできることについて気づき、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとすることができる。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

家族をもっと笑顔にするために、家族スマイル大作戦パート2に向けて、さらに自分で取り組みたいことを決め、理由を書くことができる。

(2) 準備物

掲示物、モニター、タブレット、生活科ファイル、ワークシート、リフレクションシート

(3) 展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項	【観点】評価規準(方法)
	T: 主な発問・指示 C: 予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ▲支援を要する児童への手立て	
見通しをもつ	1. 前時までの活動を振り返る。 T: どんなお手伝いをしたかな。 C: 風呂掃除をしました。家の人に、「ありがとう」と言ってもらえました。 T: 今日は何をするのかな。 C: 家の人に喜んでもらえるように、パート2の取組を決めます。 2. 本時のめあてを確認する。	○パート1でどんな取組をしたのか、家の人への反応、本時で何をするかを確認する。 ○パート1のリフレクションの中から、「家族のため」の視点で書いているリフレクションを紹介し、パート2への意欲を高める。	
自分	(め)スマイル大きくせんパート2ですることをきめよう。	○スマイルは家族の笑顔を示していることを共有する。	

<p>の 考 え を も つ</p> <p>考 え を 交 流 す る</p>	<p>3. パート2の取組を決め、ワークシートに記入する。  T: どんなことをしたら、家の人に喜んでもらえるかな。  T: 決めたことは、家族がよろこんでくれるかな。  T: 家の人は、どんなことが大変そうかな。</p> <p>4. 決めた取組を交流する。</p> <p>①班</p> <p>②全体  T: 決めたことと理由を教えてください。  C: お皿洗いからお風呂掃除に変えました。理由は、お風呂掃除の方が時間が長くて大変そうだったからです。  C: お風呂掃除にしました。わけは、毎日お母さんがしているのを見て、代わりにやってあげたいと思ったからです。</p>	<p>○パート1での取組の資料や発表の動画を準備しておき、児童が自由に見ながらパート2で取り組むことを考えることができるようにする。  ○資料や動画を見る時間を確保する。  ○新しい取組だけでなく、パート1と同じ内容でも、「家族を喜ばせる」という視点に合っている内容であればいいと伝える。  ○めあてに立ち返り、視点に合っているかを確認する。  ▲取組の種類を板書に残し、取組の内容を決める時の考えるヒントにする。  ▲机間指導の中で、具体的な家族の様子や思いが想像できていない児童には、前時までのプリントや板書を見ないように声をかける。</p> <p>○決めた取組の内容だけではなく、どうしてその取組に決めたのか理由も交流する中で、考えを深めることができるようにする。  ○交流する中で、決めた理由を加筆修正しても良いことを伝える。  ○班で交流する際、意欲が高まるように、肯定的な反応をするように声かけをする。  ○班で交流したことを全体で広げて、考えの価値を共有する。  ○理由を板書する時には、視点に合っているところを強調する。</p>	<p>【思・判・表②】</p> <p>○家族の喜ぶことを意識したり、自分が家庭で役割を果たしている姿を思い描いたりしながら、家で取り組むことを決めている。</p> <p>評価【思・判・表②】</p> <p>A: 家族にとってより必要な手伝いを思い描きながら取組を決め、家族の視点で理由を書いている。  B: 自分のできそうなことから取組を決め、家族への視点で理由を書いている。(ワークシート・発言・リフレクションシート)</p>
---	---	--	--

振り返る	<p>5. リフレクションシートに、今日の活動について振り返る。</p> <p>T: 今日の学習で考えたことや、これから頑張りたいことを書きましょう。</p> <p>C: 家族が笑顔になれるように頑張りたいと思いました。</p>	<p>○リフレクションシートへの記入時には、家族への思いについて触れるように声をかける。</p>	
------	--	--	--

(4) 板書計画

じぶんでできるよ

㊦ スマイル 大きくせんパート2であることをきめよう。



かぞくのえがお



おてつだい

おうちの人から

おふるそうじ

・ありがとう

せんたくもの

・たすかったよ

りょうり

・またやってね

きめたこと

りゅう